

「市民会議提言書案」へのご意見と市民会議回答

	提案意見	市民会議の回答
1	<p>ボランティアの推進について</p> <p>稲城市は子育て世代の人口が増加しておりますが、その多くは仕事や子育てに忙しく、積極的にボランティアという、いわば無償活動に参加できる環境にないと感じています。</p> <p>そこで、インセンティブとして地域通貨の発行を提案いたします。</p> <p>一回のボランティアで発行する地域通貨は少額であっても、何らかの「頑張ったご褒美」があれば、ボランティアそのものがイベント化し、一歩踏み出すきっかけになると思います。家族で休日ボランティアに参加し、受け取った地域通貨で、市のお祭りで子どもが綿あめを買うような姿があれば、より地域に愛着を感じるようになると思います。</p> <p>市民会議提案書を拝読し、素晴らしいと感じました。私のような意見はすでに出ていてご検討済みのことかもしれないと思いましたが、愚考しました内容を提案させていただきます。</p>	<p>○インセンティブとして地域通貨の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの動機づけ、イベント化のためにインセンティブをつけることは有効であると、市民会議でも話し合いました。 ・提言書（案）15 頁に「ボランティアの促進のためには、インセンティブをつけることも有効であると考えます。」とまとめました。 ・また、既に市では有償化されたボランティア制度（市民活動ポイント制度等）があり、提言書 11 頁でも「有償型ボランティアも含めた参加者の拡大を期待します。」とまとめています。
2	<p>市民会議の提案書を拝読しました。</p> <p>創業支援について、特に素晴らしいと思いました。</p> <p>アクティブシニアや女性もターゲットに含めるため、平日日中も開催いただくよう検討を進めていただけたらと存じます。</p>	<p>○アクティブシニアや女性もターゲットとした創業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者や女性の活躍については、市民会議でも活発に話し合われましたが、提言書案にまとめるにあたっては、高齢者や女性に限らず、「だれもがチャレンジできるまち」が望ましいとしました。 ・提言書（案）4 頁に「誰もが、それぞれの能力を活かし、それぞれのライフスタイルにあった働き方ができる、また、市民のチャレンジが応援されるようなまちを期待します」とまとめました。

	提案意見	市民会議の回答
3	<p>市民会議の提言を拝読させていただきました。この様な前向きな活動があるとは知りませんでした。皆さんと同様私も、市民会議提言が実現できると良いと思います。</p> <p>ただ、今後の行動に関して具体的な提言があまりないと感じましたが、これは今後検討するからだということだと解釈しました。その解釈の前提で、いくつか意見を申し上げます。私は前期高齢者です。その視点が多くなっていますが、ご容赦願います。</p> <p>ご要求の意見と趣旨がズレていなければありがたいと考えています。</p> <p>(1) 提言の文中、様々なコミュニティが既にあると書かれています。そのコミュニティが連携をして様々な課題を解決することを期待されています。コミュニティ活動は多くの場合、ボトムアップの活動で、それが故に市民の善意の集まりの活動との位置づけであると思います。しかしながら、老婆心ながら心配するのは、ボトムアップの活動はそれぞれの成果が上がっていても、連携した成果を出すというのは中々難しいとの前例が多くあります。これは、個別の成果が残念ながら「点」としての成果であり、「線」や「面」としての連携した活動成果になりにくいこと、また個別の成果が部分最適であっても全体最適にはなっていないことが多くあるためだと考えています。機能割り振り設計はトップダウンの一面が必要と考えます。</p> <p>そこで、市民会議が目指すまちに対し、それを実現するために、まず今後どの様な機能が必要なかを明確に定義し、そして、今あるコミュニティがどの様程度カバーしているのかを分析する必要があるのではないかと考えます。その上で、不足している機能を今あるコミュニティの機能の中で再配分したり、必要なら更に新たなコミュニティを立ち上げることを実施したらどうかと考えます。必要な機能をほぼ網羅した形で、市民会議の提言の実現を目指していければ、実現の可能性が高くなるのではないかと推測します。</p> <p>たとえば、提言にあるようにシビックライトの精神を持つ人材の必要性を述べられています。これらの人が既に十分存在しているという前提なら問題</p>	<p>○ (1) 地域コミュニティの活性化と今後のまちづくりにどのような機能が必要なかを定義し、不足する機能を再配分する等の対策が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シビックプライドは、まちに住む人たちが、このまちに関わり、このまちを良くしていこうという意識であり、市が強制するものではないというのが市民会議の意見です。 ・コミュニティの機能割り振りについては、それが必要とは市民会議として考えてはいません。提言書の中では、自由闊達にコミュニティができて、そのコミュニティ同士の連携が進むまちを期待しています。

提案意見	市民会議の回答
<p>はありませんが、これから自然発生的にこれらの人材が集まってくることを期待するのも楽観的過ぎるような印象を持ちます。これからこれらの人材を育てていく必要があるとしたら、シビックライトの精神を持つ人材の育成という機能を持ったコミュニティが必要となります。</p> <p>私は稲城市のコミュニティがどのようなものがどの位あるか詳しくありませんが、ICカレッジがあることが存じております。ICカレッジは生涯学習ということで、多くの場合市民の知的興味の満足という機能があると思いますが、ここにシビックライトに富む人材の育成、ひいてはその人材がいろいろあるコミュニティの連携役を育てる機能を持たせたらどうかということです。つまり、市民会議の提言する状態を実現するために必要な機能を今あるコミュニティに再配分できて、新たに必要な機能は新たなコミュニティに割り振ることができれば、市民会議の提言は網羅性をもって活動でき、実現できる可能性が高くなると思います。また、コミュニティに機能配分を通じて、自助、共助部分を固め、その上で公助を求めれば、市の協力も得やすくなるのではないかと考えます。</p> <p>現在あるコミュニティに新たな機能を再配分することを認めてもらうことは相当の困難が予想されます。ただ、自分たちの稲城の目指す姿を示し、それをどうすれば実現できるのか（つまりどのような機能を有機的に融合していけば実現できるか）のビジョンを示してお願いをすれば、協力していただける可能性はあるように思います。</p> <p>(2) 2030年の稲城の姿⑨の農に親しむまちでは、主にビジネスの視点で記述されていると思いました。寺島実郎氏の「シルバーデモクラシー」に、地方の高齢者と都市郊外の高齢者とは環境が大きく違っていると指摘されています。地方は第一次産業が近くにあり、高齢になっても農業、漁業等があり生きがいやりがいの持てることが多くある。それに対し都市郊外の高齢者にはそれがなく、生きがいやりがいの場所が得られにくい。</p> <p>稲城にはほどよい田舎環境があります。これらが元気な高齢者のやりがいの場所になると良いのにな、と考えます。</p>	<p>市民会議の回答</p> <p>○(2) 元気な高齢者による農家支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農と高齢者の関りにつきましては、「健康寿命の延伸」といった視点で市民会議では話し合いました。 ・提言書(案)18頁の記述を「土や農に触れることが高齢者の生きがいとなり、健康寿命が延伸するといった効果も期待されます」と修正します。 ・また、同じく提言書(案)18頁の(1)農と人が近づくまちの文章、「子ども達が土にふれること等を」の部分は、子どもだけではないことを

提案意見	市民会議の回答
<p>稲城の農家は後継ぎ問題から低下傾向にあるのではないかと思います。農家支援を（難しいかもしれませんが）元気な高齢者の支援で少しでも農家経営が楽になれば、農家も助かり高齢者も生きがいを感じることができるのではないかと思います。これを実現できるマッチングシステム、高齢者に過度の負担がかからないシステムが必要と思います。</p> <p>(3) ICカレッジで再認識したのですが、稲城には多くの縄文人達が稲城の山々で生活していました。縄文時代は1万年以上も継続しました。（私たちは西暦になってから2000年程度しか経っていません）縄文時代は戦争もなかったらしく、自然破壊をしてしまうこともなく、正に持続的生活をしていました。縄文時代は知れば知るほど、生き活きとした生活をしていました。今話題のハラリ氏の「サピエンス全史」では、稲作が始まってからより狩猟採集の生活の方が人類は幸せだったと記述しています。その判断の正否はともかく、モノもなく貧しい、苦しい生活とは単純に言えない、むしろ精神的には豊かな生活だったのかもしれないと思い始めています。話が脱線しましたが、言いたいのはその様な心豊かな人々が長く稲城の丘陵で生活していた。その場所を具体的に知って、昔に想いを馳せて今の稲城のその場所を見てみると、より稲城に愛着が湧くと思うということを申し上げたかったのです。縄文だけでなく、稲城に係わった歴史を知り当時の人々の心に思いを寄せることでより愛着が生まれてくると感じています。</p> <p>(4) 今後、震災や温暖化による気象異常が懸念され、災害が増える可能性があると思っています。自助、共助の観点から地域ぐるみでの協力体制が重要になってくると思います。</p> <p>実は、近所の人達が集まってバーベキューをやりながら、定期的なこの様</p>	<p>確認し、「市民が土にふれること等を」と修正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家とのマッチングシステムについては、農に触れたことのない若者ややってみいたいという若者と、手伝いが必要な農家とのマッチングについて、市民会議では話し合いました。 ・なお、市民会議では、農家への経営的な支援は、必ずしも農家が求めてはいないという認識を踏まえ、経営面への支援を行うという表現は入れないこととしました。 <p>○ (3) 本市の歴史遺産を活用した、市への愛着度の向上促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲城市の歴史遺産については市民会議で話し合っておりませんが、提言書（案）6頁の「もっと魅力を発信するまち」では、市民が稲城の魅力を再認識し、愛着をもって地域を活性化させていくことを提案しています。稲城の歴史も稲城の魅力であり、資源であると考えます。そのため、提言書（案）7頁に追加します。 <p>○ (4) 自助、共助の観点から地域ぐるみでの協力体制</p> <p>※バーベキュー等を活用した防災コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議では、災害時に特化した話し合いはしておりませんが、提言書（案）8頁の「自分でつくる つながり合うまち」では、地域での

	提案意見	市民会議の回答
	<p>な活動（イベント）をすると、近所の人達とのコミュニケーションも取れま すし、一種地域協力の炊き出しの予行演習的行為でもあるなど感じました。 恐らく、いざという時に役立つと思います。</p> <p>これは少し妄想でもありますが、市が近所での懇親の意味でのバーベキュー を実施する場合に限り、道具の貸し出しとか公園の場所提供をして、近所 ぐるみのバーベキューを奨励すると、災害時にも効果的かもしれないかと何 となく考えました。近所の空き地で行えればもっと実戦的かもしれません。</p> <p>好き勝手なことを種々申し上げ、申し訳ありませんでした。もし、市民会議 での検討の助けになれば、幸甚です。</p>	<p>多世代交流について提案しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見のバーベキューを利用した近所のコミュニケーションについては、市内ではバーベキューを行ってコミュニケーションを図る自治会や、餅つき大会、運動会を行う自治会もあり、ご提案いただいた内容もその一形態であり、つながりづくりに有効な手段と考えます。
4	<p>全体の感想として、「2030年の稲城を描く市民会議提言書案」というテーマに対 し、短期で実現可能な提言が多いように思います。</p> <p>2030年の稲城を描こうとした時、約10年という長期的なプランが必要になると 考えます。</p> <p>提言書に記載の内容は、「市民が普段の生活の中で気づいた改善点」がまとめら れているように感じます。</p> <p>提言書の提言自体に異議をとらえるものではありません。</p> <p>普段の生活の中で気づいた改善点は、明日からでも行動を起こすことによって 実現・改善が可能なものであり、長期的なプランとは別物と考えます。</p> <p>市民会議の参加メンバーには長期的なプランを意識して意見を求めるようなフ ァシリテートが必要なのではないかと思います。</p> <p>稲城市としては、市の観点ではなく市民の観点としての意見を求めたいの ではないかと察しますが、長期的な観点での議論を促すために、市として何らかの 意向を市民会議に伝えるといった工夫が必要なのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、「稲城市として今後10年間の年収は〇〇円になると予想しているが、 それを何に投資すると市民の Civic Pride が向上するか？」というテーマで質 問を投げかけると、提言書の中身は今とはだいぶ変わるのではないかと考えま</p>	<p>○市民会議では長期的な観点での議論を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民会議では、今回の計画期間が満了する2030年に、稲城市がどのよ うなまちになって欲しいか、どのようなまちに住んでいたい のか、その将来像を、参加する市民の視点で自由に語り合ってきました。 提言書（案）には、一見して短期的な内容も含まれていますが、これ らは、将来像を実現するための手段として話し合われたものです。「市 民が普段の生活の中で気づいた改善点」の積み重ねにより、2030年、 より良いまちになって欲しいと考えたものです。

	提案意見	市民会議の回答
	<p>す。</p> <p>こういった活動の取り組み自体は有意義なものだと思いますので、アウトプットもより有意義になることを祈念します。</p>	
5	<p>ファミリーサポート ソフトテニス 支え合う会みのり 手話教室 子育てサポート、大昔はバドミントン 等々に関わってます。</p> <p>体育館一般開放指導員、団地自治会にも少し関わりました。ずっと他市に電車通勤してました。今は電車に乗るのは月に数回です。自転車、自家用車は持ってます。</p> <p>ここに死ぬまで居たいです。歩けなくなったときでも、自宅で緩和、食事、排泄ができることを期待します。意識があるのに殺されたり、糞まみれになりたくないなあ。</p> <p>でもオートロックを開錠できないときはどうしよう。管理人が居ないとき、医者、看護師、ヘルパー、配達人、ボランティアは困りそう。</p> <p>鍵を預けたら不審者がマンション内に居たと、近所に叱られそうだし。消防・救急は対応できるそうだが。</p> <p>IT 生体認証等々で対応するのかな。でも臨時ボランティアはやはり困りそう。どうなるのでしょうか。</p> <p>災害時、マンション躯体が大丈夫の間は自宅に残り、救援物資を避難所まで受け取りに行く、動けないときは持って来てくれると想定し、電気、ガス、水が止まった自宅で三日から一週間耐える準備（心構え）をしていますが、心得違いはあるか。</p> <p>2030年の稲城 10のまちを通して描く3つのまちの姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民の力が活躍するまち 2. コミュニティが活きるまち 3. ほどよく田舎 ほどよく都会なまち 	

提案意見	市民会議の回答
<p>何故この3項目かは理解できませんが、稲城の現状を肯定したうえで住民の活性度、満足度を上げたいとの希望提言と納得します 以下10のまちイメージ各項についての意見です</p> <p>2030の姿1 誰もが活躍し輝けるまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活躍し、輝ける仕組み（人材発掘と情報発信）のあるまち 2. 活躍し、輝ける場のあるまち <p>まず、コーディネータの確保を考えられたようですが、現在のチャンピオンというか目標人物は？ こういった方々を真似るといふか、続く人々を発掘支援したいですね。 高齢者中心に気軽に集まれる場、手話教室等勉強できる場やスポーツクラブ等々足りなければ提案できる場所もあるのでは？先人たちの周知はともかくこれ以上どんな施策が必要なのかピンときません。</p> <p>2030の姿2 仕事も生活もできるまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民の能力が活用されるまち 2. 創業する人が生まれるまち 3. 誰でもチャレンジできる市民主体のまち <p>起業精神、職住接近、勤時間撲滅は大賛成です。子育て世代の能力発揮には職住接近がなによりです。</p> <p>2030の姿3 もっと魅力を発信するまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民自ら積極的に発信するまち 2. 魅力を発信するまち 3. 魅力をデザインするまち 	<p>○2030の姿1 誰もが活躍し輝けるまちについて、コーディネーターの目標人物はだれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の人物を想定したものではありません。提言書（案）11頁では、「地域の小さな自助・共助グループの活動が円滑に継続、発展していくために、専門的な知識や経験を持つ人材等がコーディネーターとなり、運営がサポートされていることを期待します。」としており、2030年の稲城、そこから先に向けて地域での活躍がずっと続いていくため、人材や場のある環境となっていることを期待しています。 <p>○2030の姿3 もっと魅力を発信するまちについて、どんな良い結果が得られるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議では、誰もが安全に快適に暮らせるまちであるためにはどうしたらよいか、話し合いました。稲城市にはたくさんの魅力があり、

提案意見	市民会議の回答
<p>魅力発見したとして、情報発信力をつけたとして、どんな良い結果が得られるのかな。人口増？地価高騰？稲城を自慢するとどんな良いことがあるの？シビックプライド？良い暮らしをしている人は口数少ないものでは？</p> <p>2030 の姿 4 自分でつくる つながり合うまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新たなつながり、コミュニティのまち 1-1. 多様な世代での交流 1-2. 新しいコミュニティ 2. 人をつなげるネットワーク・ツールのあるまち 3. 交流し、入れ替わり、続いていくまち <p>誰が何をしているかを知ったとして、そこに参加しやすいか、続けやすいか仲間となれるか、自分の都合との折り合い、気に入らない人・ことをどう克服するかですね（テレビドラマみたい）。</p> <p>昔から続いている 子供会 青年団 婦人会 町内会 老人会 がありますがこれらの課題はなんですか？また、情報発信の重要性を言っているようですが、受信能力の向上のほうが問題を感じます。マンションの郵便受け横のごみ箱に市の広報が捨てられているようでは課題山積？</p> <p>2030 の姿 5 高齢者が生き生きと暮らせるまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人がつながるまち 1-1. 誰でも参加できる地域の小さな自助・共助グループのあるまち 1-2. 気軽に、飽きずに参加できるグループ活動 2. 地域の自助・共助グループが育つまち 3. ボランティアで助け合うまち 4. 孤立しないまち 	<p>それを多くの市民が再認識し、共有していかれる将来を期待して、「魅力を発信」とまとめました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信することで、みんなが稲城に誇りを持つ、あるいは他市の人がうらやましいと思う、そういうことが期待出来ると考えています。 <p>○2030 の姿 4 自分でつくる つながり合うまちについて、そこに参加しやすいか、続けやすいかが問題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数あるコミュニティの抱える課題、コミュニティとのつながり、コミュニティ同士のつながりをつくる上での課題、情報が行き届かない課題。これらについて、市民会議でも話し合いました。ご意見いただいたように、課題はたくさんあると考えます。将来に向けて、人々のつながりが広がっているまちを作っていくためには、こういった課題について、検討し続けていくことが必要と考えます。

提案意見	市民会議の回答
<p>2030 の姿 6 子育てしやすいまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. みんなで子育てするまち 1-1. 支援する人と支援される人のつなぐ仕組みの構築 1-2. 子育てする人のサークル 2. 大学や学生との連携 <p>元の法律の関係での縦割り行政・予算にしばられて連携は難しいでしょうが、包括支援センター等で子育て、障がい者等、高齢者以外も扱いませんか。</p> <p>自助 互助 公助 は高齢者、子供、障がい者も弱者保護として同じでしょう。支えられる人でもある範囲で支える側になる（お客ではなく支えあう）関係のほうがつながり・生きがいになるとおもいます。コミュニティはどこにどんな弱者がいるかを誰が知っているか=プライバシー保護と共助情報とで危険が増えることの表裏の状況をどう管理して安心を得るかが課題です。オートロックのマンションを訪問して認知症、寝たきり等で開錠できないときは困りますよね。既存の福祉センター活動、ボランティアセンター、シルバー人材センター等々ではなにが不十分ですか。支え合う会みりの会食会や類似活動もたくさんありますよね。子育てに学生が参加できればさらに担い手が増えますね。</p> <p>2030 の姿 7 安心して快適に暮らせるまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安心なまち 2. 快適なまち 3. 安心・快適なまちへ向けて助け合うまち <p>80 歳 100 歳は出歩くよりも支援者が訪問しやすい場所に居るほうが良いでしょう。保育園児/デイサービス 全寮制/ホテル住まいのように集合生活するとか、訪問サービスを利用するとか近所のボランティアの目 手 足を活用したつながりはプライバシー保護と危険増大との表裏の状況にどう対処するか課題と思います。</p> <p>オートロックのマンションを支援訪問するとき認知症、寝たきり等で開錠で</p>	<p>○2030 の姿 6 子育てしやすいまちについて、包括支援センター等で子育て、障がい者等、高齢者以外も扱ってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議では、子どもや障がい者、高齢者の方々を含めて「誰もが」という視点から、全ての人を含んで議論をしましたので、ご提案の内容も踏まえて提言書（案）の表現としていっていると考えます。 <p>○2030 の姿 7 安心して快適に暮らせるまちについて、プライバシー保護と危険増大との表裏の状況にどう対処するか課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出歩けない高齢者が孤立しないための方策について、市民会議でも話し合いました。やはり、プライバシーの問題等難しいため、「公」での実施が望ましいとして、提言書（案）11 頁で「交流の場や地域のボランティアグループ等への参加が難しい人に対しては、地域包括支援センター等の公的機関による訪問、サポートを充実することにより、高齢者が孤立しないまちであることを望みます。」とまとめました。 ・ボランティアについても、生じる様々な問題に対応し、円滑な活動につながるため「専門的な知識や経験を持つ人材等がコーディネーターとなり、運営がサポートされていることを期待します。」とまとめ

提案意見	市民会議の回答
<p>きないと困るということで、鍵を預けたり、開放してしまうのは安全上困りますよね。インセンティブは有償化 行政支出を含め活動が持続できる状況にすることが必要です。補助金バラマキ分捕りあいでは困ります。</p> <p>2030 の姿 8 緑とふれ合えるまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緑を減らさないまち 2. 緑を活かすまち 3. 緑をPR・楽しむまち <p>2030 の姿 9 農に親しむまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農と人が近づくまち 2. 農産物を活かすまち 3. 「梨」と親しむまち <p>住宅地にする以上の税収・公支出バランスがあるなら大歓迎です。 緑地、公園、農地農薬、砂ぼこりのデメリットを心配するくらいになりたいものです。 地産地消を進めることができる売り上げがあると良いですね、梨関連の売り上げも税収につながるなら大歓迎です</p> <p>2030 の姿 10 誰もがずっと住んでいたいまち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ふるさととして誇れるまち 2. 人と人がつながるまち 3. きれいで快適で安全なまち <p>住んでいるまちを誇るのも、きれいで快適で安全なまちになるのも、居住努力の結果でしょう。住んでいるまちだからきれいにしようではないでしょう、世界中きれいにしたいものです。 みなさん住みやすいから住んでいるのではあって、今が適度だからもう変わ</p>	<p>ています。</p> <p>○2030 の姿 10 誰もがずっと住んでいたいまちについて、まちを誇ることやきれいにするのは居住努力の結果ではないか。 ・「世界中きれいにしたいものです」というのは、おっしゃる通りです。「住んでいるまちだから」というのは、誤解が生じるかもしれません。まずは身近なところからといった意識を子どもから大人まで持つべきであると市民会議では話し合いました。 ・また、小中学生アンケート調査でごみが多いという意見が多く、自分たちみんなでごみをなくすまちをつくる取組みによって、安心して快適に暮らせるまちとなることを記述しています。</p>

	提案意見	市民会議の回答
	<p>るなというのもエゴでしょう。</p> <p>仕事・子育てをしている若い人が住みやすいことと 80 歳 100 歳が住みやすいとは同じでしょうか。顔見知り・顔なじみのコミュニティとは市内に行くところがあることでしょうか。80 歳も 100 歳も出かけないとながれないのかな？ 出歩くのが不自由で家にいる人、寝込んでいるベッドサイドには誰も来てくれないのかな。</p> <p>p. s. 提言の pdf ファイルですが、テキストの copy 取り出しができませんでした。できるとありがたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書（案）23 頁の記述は「私たちの住んでいるまちをきれいにしよう」に修正します。 ・快適であるとか住みやすいとか、感じ方は十人十色ですが、目指すのは提言書（案）23 頁に記述したように「誰にとっても安心・安全な、住んでいたいまち」であると市民会議ではまとめました。 ・また、11 頁の（4）孤立しないまちにおいて、外に出られない人（高齢者等）が孤独にならないまちとなることを記述しています。
6	<p>2030 年の稲城を描く市民会議提言書案を読ませていただきました。</p> <p>稲城の未来について、市民が何を求めるか、行政は何をするべきか、議論し、まとめたと思います。</p> <p>市民会議提言書案を読む限り、残念なことに障害者のことを置き去りにされているような気がしました。</p> <p>障害者の意見をもっと拾い上げて、少しでも提言していいかと思っています。</p> <p>障害者が住みやすい安心して暮らしやすいことを、少しでも挙げればいいのかと思います。</p> <p>障害者も同じ市民という感覚で共存していく方向を持っていただければと願っています。</p> <p>以上、意見を述べました。（簡潔な意見で済みません。）</p>	<p>○提言書案において、障害者が置き去りにされている。（触れられていない。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議では、障がい者についても時間をかけて話し合いをしました。その中で、子どもや障がい者、高齢者の方々を含めて「誰もが」という視点から、全ての人を含んで考え方を整理しました。そして、色々な人が自分達から助け合えるまちとなれるように、コミュニティの「場づくり」が必要と提言しています。 ・なお、障がい者のご意見等は、市も別な機会ですっかりと聞いていくことを確認しています。
7	<p>私が住むまちの、これからのことを、いろいろと考えてくださった方々に、感謝します。</p> <p>P4～5「仕事も生活もできるまち」の中にある「市民のチャレンジが応援される</p>	<p>○子供を保育園に預ける基準等について。</p>

提案意見	市民会議の回答
<p>ようなまち、子育て世代がもっと能力を発揮出来るまちになることを期待」の部分について私は、画家活動をしています、出産して数年、子供が小さい間は、画家活動を休止していました。私には絵の販売での収入が、安定してあるわけではなかったもので、子供を保育園には預けられないと思っていました。でも、保育園に預けられるなら預けて、画家活動をしたいと思っていました。現在、稲城市では、親に毎月決まった収入がなくても、わずかな収入でも、子供を保育園に預けることができるのでしょうか？もしそうでないのなら、アーティスト活動、作家活動をする人、何かにチャレンジする人は、審査を設けたり、活動報告をすることで、安定した収入がなくても子供を保育園に預ける事ができるようになったらいいなと思います。</p> <p>P20 の「梨」と親しむまちについて 会議の中で出た意見として「梨を街路樹にした梨街道」とありますが、私は梨の花が好きなので、「梨を街路樹にした梨街道」があったらいいなと思いました。稲城に来てから、お花見はいつも、桜+梨の花を見えています。梨の花はいつも梨農家さんのフェンスの中なので、桜のように見れたらいいなと思っていました。</p> <p>「なし+アートの取り組み」という意見も、どのようなことをされるのか、気になりました。</p> <p>P16「緑とふれ合えるまち」の、会議の中で出た意見「ソメイヨシノの並木を寿命により更新する際には長寿命の品種に」について 桜は、早く咲く河津桜や、遅く咲く八重桜がありますが、並木ごとに、河津桜並木、山桜並木、大島桜並木、八重桜並木と品種を変えたら、お花見がいろいろ楽しめていいと思いました。</p> <p>以上、よろしくお願いいたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての負担ではなく、その魅力をみんなで共有できるような地域、だれでもがチャレンジできるまちは、市民会議で話し合ってきたところです。保育園に限らず、そういった環境となっていることが期待されます。 ・提言書（案）4頁に「稲城で出来ている世代間交流をもっと活用し、地域全体で子育ての負担を軽減し、子育ての魅力を共有出来るまち、子育て世代がもっと能力を発揮出来るまちになることを期待します。」とまとめています。 <p>※なお、市ではご相談者の様々な悩み等を相談窓口で伺っていると確認しています。</p> <p>○「なし+アートの取り組み」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲城の梨を市民や多くの人ができるような様々な取り組みについてして話し合った中で、食べるだけの梨ではなく、アート（芸術）とコラボすることによって、市のPRにもつながるのではないかという意見が出ました。 <p>○梨や桜を街路樹にした街道を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梨の花や、桜の花を稲城の魅力の一つとして活かすことは、市民会議の中でも活発に意見が出たところです。提言書（案）20頁に「子どもたちが梨に触れる機会、市民が梨を口にする機会、市民全体が梨と接する機会が増え、梨に対する愛着が深まることを期待するとともに、梨畑は、市民にとって愛着のある梨を産み出すだけでなく、親しみの

	提案意見	市民会議の回答
		<p>ある緑でもあり、梨畑が身近に保持されていることを期待します。」とまとめています。</p>
8	<p>2030年の稲城を描く市民会議提言書を拝読させていただきました。会議に参加された皆様の、稲城に対する想いが詰まったとても良い提言書であると思います。この提言書を作るにあたり、数多くの皆様が惜しみない時間を費やし、作成して頂いたこと感謝を申し上げます。</p> <p>私の意見としましては、大筋全てにおいて合意致します。</p> <p>細部につきましては、簡潔にまとめる為に省略した部分も多いかとお見受けしますので割愛します。</p> <p>2030年に向けての提言との内容なので、日本全体における社会問題を前提とした提言書である事を記載した方が良いかと存じます。</p> <p>2025年問題と言う、世界的に見ても未曾有の超少子高齢化社会。稲城市も必ずその煽りを受けることは明白であり、それに対しても具体的な施策の提言を盛り込んだ方が、より一層精鋭化すると思います。</p> <p>現在の稲城市の高齢者の割合、そして2030年に予想される高齢者の割合を明記する事により、具体的に生活に関する交通網の更なる整備や、自治体の更なる高齢化問題等を提起。</p> <p>市民一人一人が他人事として考えず、我が事と捉えられる様な提言書であれば、もっと共感の持てる提言書になるかと思えます。</p> <p>緑と文化を生かした新たな街づくり計画で里山を生かした自然教室・稲城ならではの自然の中に作る文化財(庭園等)を新に造る計画案。</p>	<p>○日本全体における社会問題を前提とした提言書である事を記載すべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民会議では、稲城市がどのようなまちになって欲しいか、どのようなまちに住んでいたいのか、その将来像を、自由に語り合ってきました。稲城市が少子化、超高齢化の影響を受けていくことは、おっしゃる通り明白で、そういった社会の中で稲城市がどんな姿になって欲しいかについて提言する内容となっています。 「稲城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における稲城市の将来人口の見通しでは、純移動率が維持され、国民希望出生率が長期的に達成できれば、令和32(2050)年に人口のピーク(102,462人)を迎え、その後減少に転じるとされています。令和12(2030)年における人口の構成比率は老年人口(65歳以上)が24.4%、生産年齢人口(15歳～64歳)が62.3%、年少人口(0歳～14歳)が13.3%とされており、人口減少や少子高齢化が進む他の自治体とは異なる特徴を示しています。 <p>○緑と文化を生かした付加価値を持たせる街づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自然や文化を生かした人が集まる場の整備」については、市民会議で

	提案意見	市民会議の回答
	<p>そう言った後世に残せる様な投資と、既存の商店街を再活用したり、自然を生かした(川沿いにちょっとした利用スペースを作ったり)、『人が集まる場の整備』を低コストでコスパの良い投資の二軸で推進していくことで稲城と言う街に付加価値を持たせる。</p> <p>参加しやすい各地域のお祭りや、イベント等の告知を市からのメール発信サービスを利用して貰い、地域自治だけでは発信しきれない情報を行政一体となって市民へ届けるサービスの向上。</p> <p>安全面でも駅前交番を増やす(稲城は若葉台を除いて駅前に交番がない)等の提言を追加で入れて欲しいと思います。</p> <p>様々なご意見が集中して大変な作業かと存じ上げますが、稲城市の発展と日本国の安寧を願って意見を提案いたします。</p>	<p>も大いに賛同するところです。どういった手法で実現できるかは、今後の検討になるかと考えますが、提言書(案)16頁にもある「市民の協力による里山トラスト、緑のトラスト(クラウドファンディング)」といった意見も出ています。</p> <p>○行政一体となって市民へ情報を届けるサービスの向上を図るべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見にあるようにイベント等や、その他の多くの分野で情報伝達・取得の方法があまりないといった意見は市民会議の中でも多く出ました。効果的な情報発信により、みんなで楽しさを共有できるまちであることを期待して、提言書(案)6頁の「もっと魅力を発信するまち」をまとめています。 <p>○駅前交番を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> 治安といった面では、提言書(案)14頁に「災害への不安や防犯面・交通事故等への不安は、子ども達も含め、多くの市民が感じているものの、現在の稲城市の状況に、私たち市民は概ね満足していると言えます。」とまとめています。 ただし、昨今本市でも不審者の出没がみられ、市民が安心して暮らせる環境を保つうえでも駅前交番は必要と考え、提言書に追加することしました。
9	<p>【提言者・プロフィールおよび提言にいたった背景】</p> <p>4年前に妻の実家に二世帯住宅に入居した40代の勤め人です。職場は都内中央区で平日は通っています。15年前に結婚以来、稲城の町、緑が豊かで利便性がよく大変環境が良い、住むならこの町と想いを描き、移り住みました。県外工場地帯に住んでいましたが、稲城に住み活動的になり、前向きに人生に取り組めるようになりました。地域活動にも昨年より積極的に取り組めるようになりました。地域のつながりに充実感を覚える反面、こうすれば稲城の町がもっと素</p>	

提案意見	市民会議の回答
<p>晴らくなるという想いは常に抱いていました。昨年九月に市長のタウンミーティングに参加し、住民からは苦情や要望であふれかえり、市長との建設的な対話が出来なく大変残念に思いました。高橋市長の稲城の町をよりよくしたいという気持ちは伝わってきただけにもどかしい思いでした。こんなとき、SNSでいなぎ日和に登録&参加し、長期総合計画の意見書を募集されていることを知り、自分の稲城の街に恩返ししたい、より良い街にするためのビジョンをつくるお手伝いをしたいという想いになりました。</p> <p>たたき台を作成されていたいなぎ日和の管理人である早川さんの意見書を見て、素晴らしい内容と感銘をうけながら、僭越ながら当方が考えていた内容をコメントとして挙げましたところ、市のほうに直接連絡するようにお勧めをいただきました。今回の当方の稲城の将来ビジョンについて、とりまとめ、意見を提出させていただくに至りました。</p> <p>【提言】</p> <p>私が住む向陽台地区は高齢化が進み、自治会自体を構成する役員も8割以上が60歳以上。地域のブロックが12年程度の周期で当番が回ってきますので、時期役員を務める時期になります。今回の自治会役員では自治会の副会長をつとめ、地域担当で地区連合会に参加、昨年の夏には城山公園で夏まつり運営も経験させていただきました。2030年といえば、今回構成するメンバーのほとんどが80代以上。自治会としての主力も運営ができるのだろうかとの不安もある反面、今年のGWには仲間うちで城山公園のGWの手づくり市民祭りにサモサを出店させていただき、音楽イベントとしての成功とそして活気、広がっていく稲城の魅力に意気を感じ、住むことを決意されたミュージシャンの方の話を聴き、魅力的な街づくり、そして地域の強みを活かした事業や活動が活発に回れば、決して2030年は悲観することはない、と心に強く思いました。こんな立場からいくつか思うことを述べます。以下五点になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 勤め人が休日起業や地域活動への参加がしやすくなるコミュニティの拡充 (2) 稲城らしい「緑」を活かした「エッジのきいた」商品開発および販路開発 (3) 飲食店連携による地元民がお金を十分に落とす魅力的なメニュー開発 	

提案意見	市民会議の回答
<p>(4) 60代～80代世代の準リタイア世代による雇用創出につながるモデル事業の創出</p> <p>(5) 音楽フェスを含めた、空間・イベントの拡充</p> <p>1. 勤め人が休日起業や地域活動の参加がしやすくなるコミュニティの拡充 稲城市内で大企業 F 社の撤退が話題になりましたが、大規模な企業誘致による法人税獲得の運営モデルは令和の時代には見直す時期に来ているのかもしれませんが。私も一部上場企業に勤務していますが、氷河期時代に入社したいいわゆる失われた 20 年を経験した層です。とうに終身雇用のあてはなく、確定拠出年金や成果主義の導入など、勤め人であっても、雇われているだけの受け身の姿勢ではこの先立ち行かなくなっています。これは 40 代であるミドルの私のような世代はもちろんのこと、さらに下の世代にとっても、同じで本気で人生設計をしていく上では、本業以外の起業もゆるやかに行わなければ立ちいかなくなるのは目に見えています。</p> <p>一方、企業側も小さな市民活動や社会課題を解決する市民運動に対しては、支援したり業務提携をするなどの動きもあり、今までの本業誘致以外の小さな連携を SDGs の観点で実施していくのも一つなのかもしれません。多くの社会課題がありますが、SDGs ゴールの中で稲城市が何に重点課題を置くのかを絞り込んだ上で、絞り込んだ重点課題解決が出来る NPO や NGO と連携し、稲城市での活動を継続的に支援していくことによって、骨太の活動が出来、企業誘致とは別の資金獲得ができるのかもしれませんが。グリーンボンドの動きは欧州で活発に行われていますが、日本の活動は道長ばというところです。中長期的に見るとこうした社会課題解決型のファンド導入に資するような活動は自治体レベルでは必要な時期に来ているのかも知れません。</p> <p>今回の手作り市民祭の参加を通じ大変可能性を感じました。開かれた市民活動を支援できるような市民祭などの活動がさらに拡がることで、休日勤め人の地域活動への参加やコミュニティとの繋がりが増えていくと思いました。</p> <p>2. 稲城らしい「緑」を活かした「エッジの利いた」商品開発および販路開発</p>	<p>○ (1) 勤め人が休日起業や地域活動への参加がしやすくなるコミュニティの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「休日の会社員が地域活動へ参加」といった視点の意見は市民会議でも出ていました。様々な人がつながり合って課題を解決できるまちは、会議の中で非常に多く話し合われた視点であり、提言書(案) 1 頁に掲げる 3 つのまちな姿にもまとめているところです。 <p>(2) 稲城らしい「緑」を活かした「エッジのきいた」商品開発および販</p>

提案意見	市民会議の回答
<p>稲城の特産は梨になりますが、残念ながらエッジが利いていません。引越し前には千葉県市川市に住んでいましたが、こちらの特産も梨。全国区で人を呼び込めるだけのパワー不足であることが否めません。イメージでいくと、宇都宮や浜松の餃子に相当するようなコモディティです。カレーは一つ可能性があります。昨年開催されたカレーフェスタ。ここで梨のカレーが出てきました。Gigi のしっぽさんの欧風梨カレーは大変美味しかったです。一つの商品が認知、そして広まるにはイベントへの露出を増やしていく、あるいは、まだ市場に出ていないカテゴリーを狙ってオンリーワンをつくって育成していくか。今週末に開催される横須賀のカレーフェスタなどで全国のカレーが出ています。こうしたイベントへの継続的な出店、および出店支援は必要でしょう。</p> <p>後者の市場に出ていないカテゴリーは、目新しく今無いものをトレンドをズラして作り込んでいくのが一つかもしれません。例えば今回だしたサモサ。まだ餃子の町はありますが、サモサを着目した自治体はありません。稲城産のハジルを練り込んだ緑の稲城サモサなどは面白いかもしれません。緑の〇〇は、稲城らしさをだせるキラコンテンツです。ぜひ取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>3. 稲城市内の自営飲食店連携による市民の中で賃金がまわる魅力的なメニュー開発</p> <p>坂浜在住の自営業の方とお話させていただく機会がありました。圧倒的に不満がある。と。稲城市内でじっくり腰を据えて飲めるところが少ないと。一回あたりの単価 3~5000 円でも出してよいので、しっかり食べられる満足できる店が 4~5 店舗あれば毎日でも通う、と。飲食店さん同士の連携をはかり、とにかく、稲城市内の人が稲城市内でお金を落としてもらえるお店を増やす。</p> <p>そのためにはシンボリックなお店が必要かもしれません。頑張られているのが、このたび観光大使になられた京王よみうりランド駅前の Green World Café。緑を基軸のメニューと音楽イベントを定期的で開催している人気店です。すでに 7 年も継続して経営されているお店です。こうしたシンボリックな稲城らしさを持つお店の後方支援するような融資や広報など含めた支援活動は市のほう</p>	<p>路開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 梨の商品開発に関する話し合いは市民会議の中でも活発にされました(提言書(案)20頁)。また、提言書(案)7頁にまとめた「魅力を発信するまち」では稲城市といえばこれ、といった魅力の創出・発掘についても話し合いましたが、「カレー」「サモサ」といった具体的な話に至りませんでした。 <p>(3) 飲食店連携による地元民がお金を十分に落とす魅力的なメニュー開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲食店に特化した話し合いはありませんでした。が、提言書(案)6、7頁の「もっと魅力を発信するまち」では、新たな魅力を創出しオール稲城で発信していくといった話し合いがされました。

提案意見	市民会議の回答
<p>で積極的に行っていただきたいです。</p> <p>稲城らしい食べ物として一つ考慮して頂きたいのが、カレー。スパイスカレーや間借りカレーなど、週末起業のサラリーマンやいわゆる専門家でない人でも素晴らしいカレーを提供・楽しむ時代になっています。私も香取薫先生の料理教室で勉強中ですが、美味しいカレーを作る人が市外からも集い、楽しむ空間が増えてきたら、ますます魅力的な町になっていくのではないのでしょうか？</p> <p>4. 60代～80代世代の準リタイア世代による雇用創出につながるモデル事業の創出</p> <p>企業誘致の上項でも触れましたが、真正面で企業誘致するのではなく、今いらっしゃる準リタイア層が地域活動だけでなく、一つの雇用としてモデル事業ができると良いかと。これが一つのシンボリックな稲城らしい商品開発や製造などに従事する人ができれば、今いらっしゃる準リタイア層の生きがい向上とともに、社会とのつながりが緊密にとれるようなネットワークが出来る良いのではないのでしょうか？</p> <p>例えばサモサ。今ある支え合いネットワーク様などの高齢者の生きがいに特化された団体様と一緒に、サモサ教室を開催し市民のお祭りで提供するだとか。手先を動かす作業は認知症予防にもつながります。サモサが自治体の中でもたくさんの名人がご年配の方から多く輩出する謎の市、なんて触れ込みは面白いキャッチフレーズになるのかもしれない。</p> <p>リタイア層の雇用としては、農への従事も考えられます。こちらも、雑穀やバジル・ハーブなどの付加価値の高い作物。そして出口に稲城らしい商品。販路としては地域の飲食店。食べるのは地元の住民。このように、生産者、製造者、販売者、消費者が一つのエッジのきいた商品を起点に全て市内でぐるぐると回るようなループが出来上がると非常に強力な力になります。ぜひ検討していただきたいと思います。</p> <p>5. 音楽フェスを含めた、空間・イベントの拡充</p> <p>稲城の魅力をさらに高める、一つヒントが「音楽」です。今回、手作り市民祭</p>	<p>(4) 60代～80代世代の準リタイア世代による雇用創出につながるモデル事業の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気な高齢者の力を活用したまちづくりについては、提言書（案）10頁の「高齢者が生き生きと暮らせるまち」の中で話し合いましたが、高齢者の雇用創出については特段意見が出ていませんでした。 農と高齢者の関りについても、「健康寿命」の観点からの言及にとどまっていますが、稲城の魅力を創出し、地域で盛り上げるといった趣旨としては、市民会議の話し合いとずれるものではありません。 <p>(5) 音楽フェスを含めた、空間・イベントの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲城の魅力を創出し、地域で盛り上げるといった趣旨としては、

提案意見	市民会議の回答
<p>の竜の池のライブを拝見して、音響のプロの方が竜の池の環境が素晴らしいとおっしゃっていました。音楽フェス含めた音楽が楽しめる空間、イベント、飲食店が増えると良いかと。自然が素晴らしい稲城にはイメージーションを高められる環境がたくさんあります。これを活かした街づくりは良い音楽と良いミュージシャンが集まります。</p> <p>そして、音楽と切っても切り離せないのがカレー。音楽とカレーの相性は大変よろしいので。カレーを標榜する自治体は多くありますが、音楽とカレーをミックスした自治体はありません。どちらも合わせて魅力を発信できれば、きっと素晴らしいカレーづくりの達人があつまり、そしてそれを魅力を感じる人が集まる。</p> <p>きっとそんな未来が来るのを期待しています。</p> <p>以上、まとまりのない文章になりましたが、自然資本がこれほど豊かで利便性もよく、人の繋がりが出来ていく町は他に無いかと。四年前に越してから、すごく元気に活動的になったのも、この街があったから。本当に感謝しています、今後も末永く持続可能な発展を続ける「稲城」を応援し続けていきたいと思えます。</p>	<p>市民会議の話し合いとずれるものではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、市民会議では、多くの市民が集まり、つながり、活躍していくこと、まちの人材が発掘され、創出され、つながって活躍していくことを期待しています。音楽フェスに限らず、アイデアを持った人が仲間を見つけてつながる、皆がそれに乗ってネットワークをつくって、実現できるまちにしたいと話合ってきました。

以上